朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校
児童数　１０８２名
令和８年１１月１日号

子供に身につけさせたい力ってなんですか

校長　小島（こじま）　孝之（たかし）

六小は運動会が終わり、日々の授業をさらに充実させているところです。教員にとって授業は命であり、最も大事にしている仕事です。先月、先生たち一人ひとりに、今考えている『子供に身につけさせたい力』ってなんですか？と聞いてみました。それをロイロノートに記入して提出してもらい、全体で意見交換をしました。

すると、「自分で考え判断する力」「自分事として考え行動できる力」「多様な他者と協力しながら乗り越える力」などの意見が多く挙がりました。これらはどれも正しいと思っていますし、すべて子供に身につけさせたい力だと思います。もちろん小学校段階の教育ですから、基礎・基本の定着も外すことはできないと思っています。

話は少し広がりますが、先月の１０月５日、次期の学習指導要領に向けた審議のまとめが中央教育審議会から出されました。その中に、このような内容が書かれていました。難語句が入っているので、かみ砕きつつ抜粋して書かせていただくと、「AI の発展により、知識そのものの価値が下がったというのは間違いで、意味理解を伴わない丸暗記や知識の当てはめ、知識の量だけを過度に競うような評価等の価値が一層低下した。」「むしろ、知識と知識をつなげて共通点や原理・原則を見つけて、違う場面や実生活でも使えるようになることや探究的な学びにつなげていくことがこれまで以上に必要になる。」とあります。そして、今後の社会を生きる子供たちには、「生涯にわたって学び続ける力、自らの人生を舵とる力」を学校教育で育成することが重要であり、「多様な他者の主張や感情を受け止め、対話と合意を重ねながら問題を発見・解決できる社会の創り手を育てる必要がある。」と書かれています。

本校では、単なる丸暗記ではなく、意味を伴う知識の獲得に目を向けながら、学校教育が終わった後でも「生涯にわたって他者とコミュニケーションをとりながら主体的に学び続ける力」を育てていきたいと考えています。そのために、子どもには、当事者意識を持って自分の考えを大切にしながら、多様な価値観を持っている人と対話をしながら課題を解決できる子供を育成したいと思っています。

ここ数週間にかけて、本校では様々な授業公開や研究授業が行われました。ほんの一例をお伝えすると、２年４組小林久美子教諭による生活科「うごくうごくわたしのおもちゃ」の第１時の公開授業。学年代表として授業をしていただきましたが、子供たちが身近にある材料を使って、自由に、くりかえし遊びながら、その不思議さや面白さにふれ、興味や関心を高め、気づいたことを伝えあう授業でした。



（小林教諭による２年生うごくうごくおもちゃの授業）

また、５年１組秋庭成希教諭による体育の研究授業は、器械運動（跳び箱）を行いました。単元名を「トン・パン・ピタ！跳び箱マスターへの道★」とし、子供たちが課題を自分で設定して、友達と関わりながら生き生きと主体的に取り組んでいました。この単元名を見るだけで楽しそうで、跳び箱を跳ぶイメージがわきます。当日は、市内小・中学校の体力向上担当が集まり、研究協議会も行いました。



（５年秋庭教諭による跳び箱研究授業）

紙面の都合で書ききれないのですが、他の教員も子供を主役にした授業を日々模索しながら授業を行っています。これからを生きる子供たちのため、全教職員が連携を図りながら今後も授業改善に取り組んでいきます。